平成30年度

道徳教育振興だより

滋賀の子どもたちにこころの元気を

道徳科を要とした道徳教育の充実

中学校
H31年度
全面実施
小学校
H30年度

平成31年3月　滋賀県教育委員会

刊行に寄せて

滋賀県教育委員会事務局　幼小中教育課長　辻本　長一

平成30年度より、小学校で「特別の教科　道徳」が全面実施となり、教科用図書を使用した道徳科の授業がスタートしました。各学校では、子どもたちのよりよい道徳性を養うことを目標として、子どもたちの実態に応じた授業づくり及び実践に努めていただいていることと思います。

同時に、道徳科における子どもたちの学習状況及び道徳性に係る成長の様子についての評価も始まりました。道徳科の目標は、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことです。しかし、1時間の学習の中で、子どもたちの道徳性がいかに育ったかということを把握するのは容易なことではありません。従って、道徳科の評価は、指導の結果としての道徳性そのものの状態を評価するのではなく、道徳性を育むための学びの状況を評価するということになります。大切なことは、授業者が子どもたちに本時で考えさせたいこと、いわゆる指導観を明確にした授業を行うことです。この「本時で考えさせたいこと」についての学びの状況を把握することが、道徳科の評価であり、そのためには、本時で扱う道徳的価値に関連する子どもたちの実態を把握し、教材活用について吟味することが重要です。

さて、道徳科の主たる教材は教科用図書であることはもちろんですが、学習指導要領解説には、

「道徳教育の特性に鑑みれば、各地域に根差した地域教材など、多様な教材を併せて活用することが重要になる」

と示されています。県教育委員会では、

「先人の『近江の心』を未来につなぐ」

をテーマに、ふるさと滋賀を誇りに思い、地域社会に貢献できる子どもを育成することをねらいとして、道徳教材「近江の心」小学校版、中学校版を作成しました。各学校で、地域や児童生徒の実態に合わせながら、有効に活用されることを願っております。

本冊子は、「平成30年度道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の推進校における実践を掲載しています。いずれの実践も、新学習指導要領の理念を踏まえ、「特別の教科　道徳」の方向性を見据えながら子どもたちの実態に応じて創意工夫されたものです。各学校におきましては、ここに挙げた事例を参考にしていただきながら、組織的な道徳教育や、「考え、議論する道徳」の実現に向けた授業実践をより一層進めていただきたいと思います。

また、学校が、「地域に開かれた教育課程」を実現し、家庭や地域との連携を密にすることで、子どもたちの道徳性はより豊かに育まれます。本冊子の事例を、学校はもとより、家庭、地域社会における道徳教育で御活用いただければ幸いです。

目　　次

□刊行に寄せて　幼小中教育課長　辻本　長一
●限りなき愛情を注ぐことが道徳教育の原点　滋賀県道徳教育推進協議会　会長　押谷　由夫 …… 1
●各発達段階における道徳教育の方向性や目標 …… 4
●道徳教育の多様な展開 …… 5
●道徳教育の取組例
・長浜市立びわ認定こども園　「道徳性の芽生えを育む工夫」 …… 6
・草津市立渋川小学校　「各教科等と関連をもたせた指導」 …… 7
・湖南市立菩提寺小学校　「ねらいに応じた多様な指導方法の工夫」 …… 8
・多賀町立多賀小学校　「児童の内面的な自覚を促す指導方法の工夫」 …… 9
・草津市立老上中学校　「生徒の内面的な自覚を促す指導方法の工夫」 …… 10
・湖南市立日枝中学校　「生徒の発達や個に応じた指導の工夫」 …… 11
・多賀町立多賀中学校　「道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実」 …… 12
・滋賀県立大津高等学校　「生徒が人間としての在り方生き方を主体的に探究する指導の工夫」 …… 13
●推進地域・企業の取組 …… 14・15
●自分への思いを深める「特別の教科　道徳」の在り方（滋賀県小・中学校教育研究会道徳部会） …… 16・17
●学校・家庭・地域社会で豊かな心を育む（道徳教育推進協議会） …… 18
資料１　道徳科の評価について …… 19
資料２　道徳科学習指導案の様式（参考例） …… 20
□学習指導要領による道徳教育－推進体制チェックポイント18－ …… 21

限りなき愛情を注ぐことが道徳教育の原点

武庫川女子大学　**押谷　由夫**

愛情を注ぐとはどういうことでしょう
愛はぬくもりです
ぬくもりを感じるのは
肌と心です

肌のぬくもりは肌と触れ合うことで感じます
握手をする
ハイタッチをする
それだけでぬくもりが伝わってきます
肌のぬくもりは心のぬくもりへとつながります

心のぬくもりは心を包み込んでもらったときに感じます
私の側に立って話してもらえるとき
私を丸ごと認めてもらえるとき
自分以上に私のことを思ってもらえるとき
心が自然にあたたまります

どうしてこのような対応ができるのでしょう
相手を信頼しているからです
だれもがよりよく生きようとする心をもっています
そのことを信じるからこそ
心のぬくもりを伝えることができるのです

このことを一言でいえばリスペクト（敬意）です
一人一人をかけがえのない存在として敬うことです
愛情を注ぐとは
よりよく生きようとする心を信じ
一人一人へのリスペクト（敬意）を深めていくことと言えるのです
それは道徳教育の原点にほかなりません

道徳教育を充実させるとは
一人一人への愛情を深め
一人一人のよりよく生きようとする心への信頼を強め
一人一人へのリスペクト（敬意）を高めていく
そしてよりよい自分と社会を創っていくことなのです

子どもへのリスペクト（敬意）を高める道徳教育を

武庫川女子大学　**押谷　由夫**

学校現場で共感をもって受け入れられている研究者に、アルフレッド・アドラー（1870～1934　オーストリア生まれの心理学者・精神科医）がいます。日本の道徳教育は、特定の研究者の理論に依拠するということはないのですが、これから求められる道徳教育を理解するうえで、アドラーの理論や実践を理解することは大変重要なように思われます。そのことによって、これから求められる道徳教育をより本質的に、かつより共感的・現実的に捉えられると考えるからです。

アドラーの理論の基本

アドラーは、「すべての人は対等な関係にある」と捉えます。そして、「共同体感覚」という考えを確立します。「共同体感覚」とは、他者を仲間と見なし、一緒に関わりながら社会的に成長していくことを求める感覚ということができます。すべての人々を平等な関係であるとみなすことによって、一人一人のよさが見えてくるのであり、自分自身の真の存在意義を見出せるのだとします。

さらに、アドラーは、人は、自分が「意味づけ」した世界に生きていると捉えます。そして、その「意味づけ」は、自ら立てた目的や目標に基づいてなされるときに、未来が拓け、成長していけると主張します。つまり、自分が遭遇する様々な事象や状況について、自分を取り巻く状況に原因を求めて「意味づけ」を行うのではなく、自分がしたかったことや目指したこととかかわらせて「意味づけ」をするときに、未来が拓かれてくるとします。そして、そのことによって、選択のすべてを主体的に行うことができ、同時に責任意識をもつようになると捉えます。つまり、自律した存在になっていくのです。

その時に、どのような目的や目標をもつかが問われます。それが「人生の意味」ということになります。アドラーは、「いまよりよくなりたいという欲求は人間の普遍的な欲求である」と捉えます。そして、「理想の自分と現実の自分」とのギャップ（劣等感）があらゆる進歩の原動力になるとします。その劣等感を克服していくには、他の人も善くなる仕方で「前進」していくことが大切であり、そのための「勇気」を育んで行く必要があるとします。そのことは、「共同体感覚」を強めていくことになります。

このような「共同体感覚」は、よりよくなりたいという欲求の基に、自己受容と他者貢献と他者信頼が重なり合って育まれていくと捉えられます。そして、そのことから、よりよい自己とよりよい社会の形成が「前進」していくと考えられるのです。

アドラーの理論からこれからの道徳教育を考える

以上のようなアドラーの理論とかかわらせて、現在取り組まれている道徳教育を捉えるとどのようになるでしょうか。

（1）　道徳教育の目標との関連

道徳教育の目標は、「（人間としての）自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きる」子どもたちを育てることを目指しています。このことは、まさにアドラーの言う、一人一人のよりよく生きようとする欲求を信頼し、「共同体感覚」を育み、「共によりよく生きよう」とみんなと

関わりながら「理想の自分と現実の自分」のギャップを埋めるべく「前進」していく子どもたちを育てることに通じます。

（２）「特別の教科　道徳」の目標との関連

道徳教育の要としての「特別の教科　道徳」の目標では、「道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、（人間としての）自己の生き方についての考えを深める学習」を求めています。つまり、人間としてよりよく生きるためには、人間の特質であるよりよく生きるための根幹にある道徳的価値意識を育むことが大切です。そして、そのことを基にして自己を深く見つめられるようになること。さらに、様々な状況において主体的に考えながら対処していけるように多角的・多面的に考える力を高めること。これらを密接にかかわらせながら、人間としての自分らしい生き方について深く考えられるようにしようとするのです。

このような「特別の教科　道徳」の授業では、「よりよくなりたいという欲求」をより明確に意識するとともに、「理想の自分と現実の自分」について自己を見つめることになります。そして、現実の様々な道徳的事象や状況において、どう対応していけばよいのかを、道徳的価値の側面から多面的・多角的に考えるということは、「共同体感覚」を深めながら、道徳的事象や状況への対応を「前進」させていくことになります。

（３）　道徳の評価との関連

道徳の評価について、学習指導要領では、「児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう」求めています。つまり、子どもたちのよりよく生きようとする心の成長を、一人一人に即してしっかりと見取り、言葉で伝え、一人一人を勇気づけていこうとするのです。

このような捉え方はアドラーの考え方と共通します。まず、今の自分を受容すること。そして、みんなと関わりながらよりよく生きていけるように、関わりを積極的にもてるように「勇気づけていく」ことを主張します。

その関わりを道徳教育では、主に「自分自身、人、集団や社会、生命や自然、崇高なもの」としているのです。アドラーにおける関わりは、仲間意識を深め「共同体感覚」を高めて幸せな生き方や社会を追い求めるということでした。道徳教育においても、人間関係をベースとしながら、様々な対象との主体的関わりを求めているのです。その関わりをどのように広げ深めているかを、一人一人に即して見取っていこうとするのです。

子どもたちへのリスペクト（敬意）を育む

アドラーも道徳教育も、結局は、子どもたち一人一人へのリスペクト（敬意）を育むことを根幹においていることが分かります。では、子どもの何をリスペクトする（敬意を表する）のでしょうか。よりよく生きようとする欲求をもっている姿そのものに対してです。また、教師が子どもをリスペクトする（敬意を表する）ということは、子どもと対等の立場にいることを意味します。そこには、子どもから学ぼうという意識が伴います。共に学び成長していこうとしているのです。それは子ども同士においても同様です。道徳教育を通して、教師と子ども、子ども同士において、一人一人へのリスペクト（敬意）を高め、みんなと一緒になって「共同体感覚」を育んでいくことになります。

各発達段階における道徳教育の方向性や目標

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」より

(4)　道徳性・規範意識の芽生え
　友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
(幼稚園教育要領　第１章　総則　第２の３(4))

道徳教育の目標

小学校

　道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とすること。
(小学校学習指導要領　第１章　総則　第１の２の(2))

中学校

　道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とすること。
(中学校学習指導要領　第１章　総則　第１の２の(2))

特別の教科　道徳の目標

　第１章総則の第１の２の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
(小学校学習指導要領　第３章　特別の教科　道徳　第１)

　第１章総則の第１の２の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
(中学校学習指導要領　第３章　特別の教科　道徳　第１)

高等学校

　道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、生徒が自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達の段階にあることを考慮し、人間としての在り方生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とすること。
(高等学校学習指導要領　第１章　総則　第１款２の(2))

　校種間の連携を意識しながら、各発達段階における取組を充実させることが重要です。

道徳教育の多様な展開

道徳教育の推進、道徳授業の充実に取り組んでいく上で、下に示す内容が重要なポイントになります。

1 道徳性の芽生えを育む工夫

道徳性の芽生えを培うにあたっては、幼児が他の幼児とのかかわりの中で他人の存在に気づき、相手を尊重する気持ちをもって行動することができるようにすること、特に人に対する信頼感や思いやりの気持ちは、葛藤やつまずきを体験し、それらを乗り越えることで次第に芽生えてくることに配慮することが大切です。

実践 1

長浜市立びわ認定こども園の取組を紹介します。
（詳しくは 6 ページ）

2 各教科等と関連をもたせた指導

各教科等と道徳科の指導のねらいが同じ方向であるとき、学習の時期を考慮したり、相互に関連を図ったりして指導を進めると、指導の効果を一層高めることができます。その際、各教科等と道徳科それぞれの特質が生かされた関連となるように配慮することが大切です。

実践 2

草津市立渋川小学校の取組を紹介します。
（詳しくは 7 ページ）

3 ねらいに応じた多様な指導方法の工夫

道徳科の指導方法の工夫の視点としては、教材提示、発問、話合い、書く活動、役割演技等の表現活動、板書、説話等が挙げられます。教師自らが多様な指導方法を理解したり、コンピュータを含む多様な機器の活用方法などを身に付けたりしておくとともに、児童生徒の発達段階を捉え、指導方法を吟味した上で生かすことが大切です。

実践 3

湖南市立菩提寺小学校の取組を紹介します。
（詳しくは 8 ページ）

4 児童生徒の内面的な自覚を促す指導方法の工夫

道徳科の指導の目指すものは、個々の道徳的行為や日常生活の問題処理に終わるものではなく、児童生徒自らが時と場に応じて望ましい行動がとれるような内面的資質を高めることにあります。そのため、児童生徒が道徳的価値を自覚できるよう指導方法の工夫に努めることが大切です。

実践 4

多賀町立多賀小学校
草津市立老上中学校
の取組を紹介します。
（詳しくは 9 ・10ページ）

5 生徒の発達や個に応じた指導の工夫

生徒の発達には年齢相応の段階があるとともに、個人差が著しいことにも留意し、一人ひとりの考え方や感じ方を大切にした授業展開を工夫することで、生徒が道徳科の主題を自分の問題として受け止め、興味や関心を高められるよう配慮することが大切です。

実践 5

湖南市立日枝中学校の取組を紹介します。
（詳しくは11ページ）

6 道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実

道徳科の指導を計画的に推進し、また、それぞれの授業を魅力的なものとして効果を上げるためには、校長の方針の下に学校の全教師が協力しながら取り組みを進めていくことが大切です。道徳教育推進教師を中心に指導体制の充実を図るとともに、道徳科の授業への校長や教頭などの参加、他の教師との協力指導、保護者や地域の人々の参加や協力などが得られるように工夫することが大切です。

実践 6

多賀町立多賀中学校の取組を紹介します。
（詳しくは12ページ）

7 生徒が人間としての在り方生き方を主体的に探究する指導の工夫

人間としての在り方生き方に関する教育は、学校の教育活動全体を通じて各教科・科目、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて実施するものです。特に公民科や特別活動等を中核的な指導の場面として重視し、道徳教育の目標全体を踏まえた指導を行うことが大切です。

実践 7

滋賀県立大津高等学校の取組を紹介します。
（詳しくは13ページ）

幼児期における道徳性の芽生え

長浜市立びわ認定こども園

就学前教育における教育・保育要領が改訂され、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として10の姿が示された。その中のひとつに「道徳性・規範意識の芽生え」があり、“友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。”とある。このような子どもに育つためには、保育者が日々の子どもたちの姿を丁寧に見つめ関わることが必要である。

5歳児11月

「大丈夫?」

ドッジボールの最中にボールが当たったことが悔しくて泣き出したA児にB児が「大丈夫？また頑張ろう」と声をかけていた。その声を聞いたA児は、気持ちを立て直し再びドッジボールに参加した。

ドッジボール後、保育者がB児に「A児に、優しく言ってくれたね」と声をかけると、B児は「私もCちゃんに言ってもらったことがあるから言えたんだよ」と話した。保育者が「そうだったんだ。大丈夫？って言ってもらえて嬉しかったからBちゃんも言えたんだね」と伝えるとB児は「うん」とにっこり微笑んだ。

＊友達に優しく接してもらった経験があり、そのことが嬉しかったからこそ、自分も友達に同じようにすることができた。また、このことを保育者が見逃さずに認めたことで、B児の心に残り友達の気持ちに寄り添える優しさにつながっていくと思われる。

「それで、いいわ。でも、明日は変えていい?」

ドッジボールのチーム分けの話し合いの時に、D児とE児が同じチームになると「ずるいわ」という声が出た。保育者「なんで？」

F児「だって、D君もE君もいたら、そっちの方が強い」

D児「だってE君と一緒になりたいもん」

G児「こんなん、絶対負けるやん」

D児「もう、これでいいやん」

F児「そんなの楽しくない」

D児「じゃあ、どうするんよ？」

H児「上手なD君とE君は、分かれたらどう？」

F児「それ、いいね」

D児 しばらく下を向いて黙っていたが「じゃあ、それでいいわ。でも、明日は、チーム変えていい？」

F児達「いいよ」

＊お互いのことが分かってきた今の時期だからこそ、保育者は、子ども達の話し合いを見守ることも必要である。その中で、気持ちの折り合いをつけたD児であった。

成果と課題

○子どもたちが自分の思いを伝える中で、相手の気持ちに気づいたり自分を振り返ったりできるように保育者が関わったり見守ったりすることで、友達に共感したり“折り合い”が付けられたりできるようになる。

●道徳性の芽生えを育むために保育者は、見えない子どもの心の声に耳を傾け丁寧に受け止め寄り添いながら、場面を捉えて適切な援助ができる力をつける必要がある。

各教科等と関連を持たせた指導 現代的な課題に関わる指導・カリキュラムマネジメント

草津市立渋川小学校〈http://www.shibukawa-p.skc.ed.jp〉

研究主題 豊かな心をもち、友だちや地域とつながり、
よりよく生きようとするたくましい児童の育成
～道徳科における授業改善～

道徳科を核にした カリキュラムマネジメント

取組①

5年　総合的な学習の時間
「滋賀の郷土料理学習」

地域の方を招いてふなずしの作り方を実演していただき、神事について話を聞く。

地域の祭りや文化を受け継いでいくために、どうすればよいだろう。

道徳科と環境教育を関連させた指導

5年道徳科（自作教材）

内容項目　C　伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度

「守りたいもの　つなげたい思い」
～ふなずし切り神事・北脇芳和～

ふなずしにまつわる自作教材で郷土の伝統と文化を大切にする心について考えた。

総合的な学習の時間
「滋賀の郷土料理学習」

学んだことを地域の方に発信し、交流した。

取組②

6年　総合的な学習の時間
「生き方学習～世界に目を向けよう」

本校の卒業生で青年海外協力隊として活躍している方と、テレビ会議システムで交流する。

わたしたちにできることがありそう。

道徳科と国際理解教育を関連させた指導

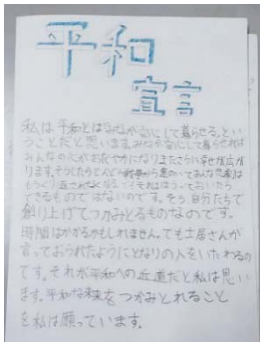
6年道徳科

内容項目　C　国際理解、国際親善

「米作りがアフリカを救う」

総合的な学習の時間の学びを想起させながら学習し、他国の人々とつながり、国際親善のために自分たちにできることは何かを考えた。

総合的な学習の時間
「平和学習」



戦争の悲惨さを知り、平和の大切さについて、自分たちにできることを考えた。

成果と課題

○自分の地域に根差した教材の活用により、自分の郷土や地域のよさに気づき、地域でできることについて考える姿が多く見られ、学習が広がるとともに深まった。また、自分事として考えることで自分の生き方に生かしていこうとする姿が見られた。さらに、各教科等と道徳科を関連付けて学習することにより、児童の学習に対する意欲が高まった。

●各教科等と道徳科を関連付けながら児童にどのように指導していくのか、教師が明確な指導観を持つことが大切である。

ねらいに応じた多様な指導方法の工夫 ～対話を深め、自分事として向き合うための手立て～

湖南市立菩提寺小学校　〈http://el.bodaiji.org/〉

研究主題　**豊かな心を持ち、自己の生き方について考えることができる子どもの育成**

～一人ひとりの児童が自分事として向き合う道徳学習を通して～

思わず学びたくなるような授業づくりをすることによって、子どもたちは、道徳的な価値についてより主体的に学び、自分のこととして考えることができるであろう。さらに、「授業の湖南市スタイル」をふまえ、思いの伝え合いや受け止め合いを充実させることによっても、自分自身を見つめ、よさに気づき、自己の生き方について多面的、多角的に考えることができるであろうと考えた。

取組①　対話を深めるための手立て

(1)　「授業の湖南市スタイル」での道徳授業

◆教材文と児童の生活をつなぐ導入
「授業の湖南市スタイル」その１

◆書くことで自分の考えを持つ
「授業の湖南市スタイル」その２

◆ペアやグループでの交流
「授業の湖南市スタイル」その３

◆多様な表現活動
話す、思考ツールの活用、役割演技など

(2)　教師の発問・問い返し

児童が話し合いたくなる発問や、児童から出された意見の取り上げ方、問い返しについて工夫をする。教師自身がねらいを明確に持ち、児童の意見から学習を深めていけるようにする。

授業の「湖南市スタイル」

- その１　本時の「めあて」を自覚する
- その２　課題に対する自分の考えを書く
- その３　それぞれの考えを交流する
- その4　めあてに応じた「まとめ」をする
- その5　学習を「ふりかえる」(学んだことを自覚する)

行事の写真を使った導入

役割演技の様子

スケール・ネームマグネットの活用

ハートを色塗りし意思表示

取組②　道徳学習を自分事にするための取組

◆「自分タイム」「道徳タイム」の取組

本時の学習内容を振り返る「自分タイム」を設け、児童が実生活を振り返ったり、学習内容を実生活で生かす方法を考えたりする時間を確保してきた。また、道徳の時間に学習したことをさらに実生活につなぐ「道徳タイム」では、道徳の学習を行った１週間後に、前週に学習したことをもう一度振り返る時間を全校的に設けてきた。

成果と課題

○授業における対話を重視してきたことで、児童が多様な学習形態で道徳的価値について考えることができた。また、問い返しによってねらいにせまろうと教師の意識も高まってきた。

○「自分タイム」「道徳タイム」が定着し、児童の実生活と道徳科の学習をつなぐことができた。また、教師による説話で道徳性を発揮している子どもの姿を示すことで、より実践意欲を高めることができた。

●本校の重点教育目標をより意識した道徳科の年間計画や学校行事、地域とのつながりを反映させた教材開発、新たな年間計画にもとづいた別葉の見直しを進めていく必要がある。

児童の内面的な自覚を促す指導方法の工夫 ～発問、展開後段、終末の充実～

多賀町立多賀小学校〈http://tagacho8123.ec-net.jp/〉

研究主題 **自ら豊かな心を求め、よりよく生きることができる子どもの育成**

～考え、議論し自分ごととして考える活動を充実させ、自他を大切にする心を育む道徳教育の充実とその評価～

よりよく生きるためには何が大切なのか自ら考え、議論し、自分たちの生活に結びつく実践ができる子どもの育成を目指している。そのために、教師が資料を詳しく分析・研究し、子どもが「自分ごと」として考えることができる発問や、展開後段、終末の工夫に重点を置き、研究を推進した。

道徳的価値について主体的に理解するために

資料分析シートを活用し発問を考える

弱い気持ちもあるという人間理解をさせる

きつねさんは、どんな気持ちかな？
きつねさんのこと、どう思う？

ペアトーク、フリートーク等

前から知っていたけれど、友だちと助け合うことは本当に大切なんだなあ。

友だちを助けることは大切だけれど、嘘をつく気持ちも分かるな。

人によって、いろいろな考え方があるんだな。

自分との関わりで道徳的価値をとらえるために

中心発問において……

【ワークシートでじっくり】

【役割演技で即興的に】

展開後段において……

みんなもきつねさんのように、友達に助けてもらったことはあるかな？
みんなも前にこんなことがあったよね。

【自分の生活を振り返らせる。価値に関わる生活場面の写真の提示】

道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培うために

終末において……

【詩や歌を紹介】

【教師の説話】など

先生も前に電車に乗っていた時、席を譲ろうか迷って……

【今日の学習を振り返らせる】

【意見交流の道徳広場】

【学習のあしあと】

成果と課題

○資料分析を丁寧に行うことで、ねらいとする道徳的価値の理解を深める発問を考えることができた。

○授業スタイルの基本型を統一することで、「自分ごと」として考えさせるという意識を教員が共有できた。児童は、「自分だったら・・・」「今までの自分は・・・」「これから・・・」と自分の思いや考えをもったり伝えたりすることができるようになってきた。

●道徳的価値を多面的・多角的な見方へと発展させる指導の工夫、価値の自覚を促す板書の工夫については、さらに研究を進めていく必要がある。

生徒の内面的な自覚を促す指導方法の工夫 思考を深める発問・ICTの効果的な活用

草津市立老上中学校〈http://www.oikami-j.skc.ed.jp〉

研究主題 **よりよい生き方をめざし、「考動」する生徒の育成**

～ともに考え、内からの高まりをめざす道徳教育の推進～

「考え、議論する道徳」をめざした授業づくりの研究を始めて二年目を迎え、特に中学校段階で考えさせたい道徳的価値の内容を教師がしっかりおさえ、それを深める授業の展開方法について研究を進めた。

取組① 授業実践の充実

生徒の内面的自覚を深める学習を展開するために、道徳的価値を追求させたり、多様な考えと触れたりする中で、自己の生き方につなぐ授業を実践した。

(1) 道徳的価値を追求させる工夫

○**教材提示**：教材に描かれている道徳的価値を生徒一人一人が自分との関わりで考え、理解できるように、読み物教材の内容の理解や中心部分へ考えを焦点化させる支援として、電子教材や板書への効果的な場面絵の提示方法を工夫した。

○**発問**：生徒が自分との関わりで道徳的価値を理解できるように、読み物教材の冒頭部分に現れる、主人公の道徳的価値に対する負の姿に、自分事として十分共感させることが大切であると考え、発問を工夫した。

例：「みんなもこんなことある？」「君ならどうする？」

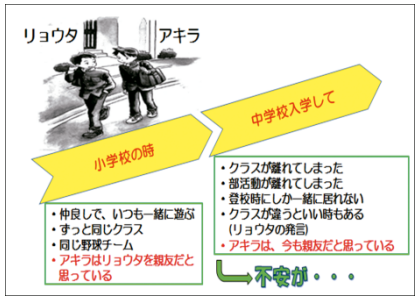
そして、中心場面へ向かう部分では、生徒に問題意識や疑問が生まれる等の発問の仕方を工夫した。さらに生徒の思考を深めさせるために、その考えを支えているものや根底にあるものは何かを問う発問を工夫した。

例：「甚太の生き方をここまで変えたものは何か。」（山寺のびわの実）

(2) 多様な他者の考えに触れる場の工夫

○**ICT機器の活用**：話し合いなどの中で再構築された自分の意見をタブレットPCで提示して、お互いの考えが見られるようにした。またそれを基にさらに自分の考えを深めてワークシートにまとめるなどの活動を設定した。

▼パワーポイントによる教材提示



▼タブレットでの意見送信

▼いじめゼロプロジェクト

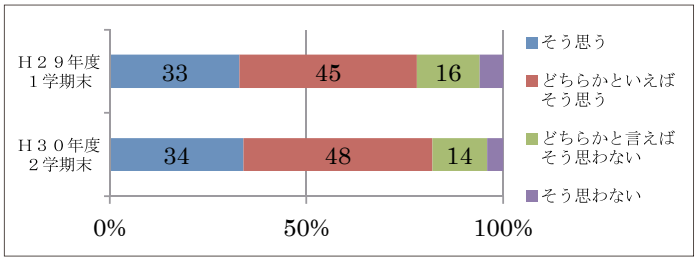
取組② 教育活動全体を通した道徳教育の推進

(1) 道徳教育講演会　生徒の心にゆさぶりをかける講師を招いて地域にも公開し、講演会を開催した。

(2) いじめゼロプロジェクト　視聴覚教材をもとにいじめ問題について学級活動で討議した後、学級の「いじめゼロ宣言」を作成し、全校生徒集会で確認し合った。

成果と課題

道徳科の授業では、感動したりいろいろな考えに気づかされたりする。



○生徒が道徳の時間に自分の考えを書いたり話したり、他の人の意見を聞いたりしながら、自分の生き方について考えようとしている様子が伺える。

○教師の授業力（道徳だけでなく教科の授業も含めて）や仲間と相談しながらチームで取り組む意識が高まってきた。

●「考え、議論する道徳」の授業の充実をめざして発問や議論の場の設定方法はさらに研究、工夫が必要である。

生徒の発達や個に応じた指導の工夫 ～学び合いによる授業実践の充実～

湖南市立日枝中学校〈http://www.edu-konan.jp/hie-jh/index.html〉

研究主題 **豊かな心を持ち、力強く生きる生徒の育成**

～学び合いを通して豊かな関わりや自己の生き方を考え、道徳的実践力を育成する～

本校では、学び合いで自分の思いを伝えたり相手の考えを聞いたりする授業の研究に取り組んできた。その活動を通して、生徒一人一人が互いを認める態度を身につけるとともに、互いの違いを尊重し合える集団づくりを行いたいと考える。また、その中で自他の良さに気づき、「自尊感情」を高めることにより、豊かな心や力強く生きる生徒を育成することをねらいとして研究を推進した。

取組① 授業実践の充実 1

学び合いによる授業展開

お互いの顔が見えるコの字型や４人グループの授業形態をつくり、生徒相互が考え議論することで、深まりのある道徳授業の創造をめざす。

コの字型による授業

４人グループによる意見交流

取組② 授業実践の充実 2

場面絵の活用・板書の工夫

場面絵により教材を視覚的に捉えやすくする。生徒の発言を整理し板書する。

話の流れがつかみやすくなった。
みんなの考えが一目で分かった。

教師全員による指導案作成

教師全員で指導案を作成し教師自身も“学び合い”の中で資料分析の深まりをめざす。

教師による指導案作成

取組③ 道徳教育と他の教育活動との連携

団リーダーによる集団指導

体育祭と文化祭では縦割の団リーダーが下級生を指導する中で、全校体制の仲間づくりを推進する。

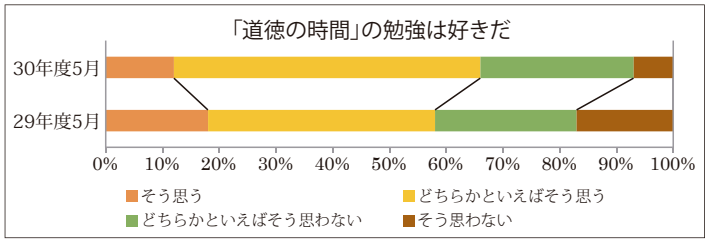
手の振り、「ここはこうやって…」

団リーダーが練習をリード

ビックアート作成風景

みんなで力を合わせて大きな作品を

成果と課題



○道徳授業にかかわらず、コの字や４人グループにより、お互いの意見を聞き合う態度や自分の意見を述べ合う活発な交流ができた。

●実際の生活に道徳実践が生かせるような工夫が十分でなく、行事や学級の諸活動とのつながりを意識して指導を積み上げる必要がある。

道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実 ～全教員で取り組んだ授業づくりと評価～

多賀町立多賀中学校〈http://taga210.ec-net.jp/〉

研究主題 **考えを深める授業の創造とよりよい生き方につなげるための評価の在り方**

～道徳性の育成につながる授業評価をめざして～

先進校の取組等から学んだことを、実践し検証する中で『学校全体で』道徳の研究を進めようという気運を高め、道徳的価値に迫るための授業づくりと具体的な評価方法について研究を行った。

学校全体で取り組むために

【授業づくり】

- 事前指導案検討会…昨年度、授業研究協議会で授業改善について多くの意見が出された。それらの意見を踏まえ、全職員で指導案の検討をすることにした。その結果、授業を参観する者全員が授業の展開や流れを把握したうえで、生徒の見取りや評価を行うことができた。
- リレー道徳…道徳推進教師や研究主任、各学年の道徳担当教員が先進校視察を行い、『リレー道徳』という取組を学んだ。道徳の時間を同じ時間に設定せず、最初に道徳を行った授業者が次の授業者に生徒の反応や、発問、話し合いの反省点等を引き継ぎ、授業改善の一助とした。
- ローテーション道徳…授業力を高めるために、担任だけでなく、学年所属の教員全員が順次ローテーションして道徳授業を行った。授業者が変わることで、生徒はまた違った観点からも興味を持って授業にのぞめた。
- 研修の共有…先進校視察や道徳研修発表大会等に参加した教員が、校内研究会の中で伝達し、情報を共有した。

ローテーション道徳で、担任がＴ２として違う視点で生徒を見とっている様子

【評価】

- 学期毎の振り返り…道徳ファイルに毎回ワークシートを綴じて、生徒の思いや考えを残したものと、学期の振り返り用紙を使って、抽出した生徒について学年でポートフォリオ評価を行った。その後全体で交流するなかで評価の視点を明確にしていった。また、生徒自身、授業を受けて気持ちが自分の中でどの程度揺れ動いたかがわかるように『心メーター』を自己評価に加え、どれだけ深く考えた時間があったのかを見る工夫をした。
- 校内研究での生徒の見取りと評価…グループ毎に抽出した生徒を、研究授業での様子から評価したものを校内研究会で交流し評価する力を高めるとともに、授業のねらいに迫れていたか検証し、教員の授業づくりの一助とした。

成果と課題

○上記の活動を計画的に行い、学校全体で道徳研究への取組を大きく進めることができた。
　生徒を見取り評価することで、教師の道徳授業スキルアップにつながった。

●教科化された道徳の授業実践力をさらに高めることやスムーズに評価を行うため、来年度の研究計画に位置づけて推進していくことが今後の課題である。

生徒が人間としての在り方生き方を主体的に探究する指導の工夫
～一人ひとりの社会的自立をめざして～

滋賀県立大津高等学校〈http://www.ohtsu-h.shiga-ec.ed.jp〉

研究主題 人間としての在り方生き方を育む教育の深化をめざして

●**これまでの経過**　平成23～25年度 道徳教育総合支援事業・平成26～30年度 道徳教育の抜本的改善・充実に係る事業推進校

学校教育を通じた仲間づくりや、人権学習、総合的な学習の時間等での体験的な学習を通して、人としての在り方生き方を考えさせる取組に力を入れ、生徒の道徳的実践力や道徳性の育成を図った。

●**今年度について**

全校的に道徳教育への意識を高めさせるため、「道徳教育教職員研修会」を開催し、学識経験者からの指導や助言を仰いだ。また、個々の取組を発展させるとともに、再構築したシラバスをもとに道徳的視点を含んだ校内授業研究、公開授業を全教科で実施した。

取組の概要

取組① 授業研究の実施

H27年度はシラバスの再構築、H28年度は全教科で校内授業研究、H29年度は公開授業を実施。H30年度も各教科で引き続き、授業研究会を実施した。

取組② 他者とのより良い関係の構築を目指す活動

①１分間スピーチ（1・3年）

１年は「高校生活をどう充実させるか」、３年は「自分の進路についての思い」について自分の考えや思いを本音で語り、自分を理解してもらう機会を設ける。これにより、相手の思いを汲み取り、自分の考えを的確に伝える難しさを気づかせた。

②コミュニケーションスキルアップ講座（１年）

他人の思いを汲み取り、自己の考えを伝えるスキルを学んだ。

③人権学習

異なる価値観があることを知り、自分とは違う考え方も尊重し、自己の考えを深めていく生徒の育成を目指した。

１年：障がい者問題（フィールドワーク）

今年度も15のコースを設定し、校内外で体験学習を実施した。「認知症の人を支えるには、家族だけでなく地域の人々の協力が必要だということが分かりました。」（生徒の感想より）

２年：在日コリアン問題（事前課題学習と講演会）

渡来人歴史館の見学など、夏季休業中に事前の課題学習に取り組み、館長の講演で在日コリアン問題への理解を深めた。

３年：部落問題学習（講演会と事前事後学習）

「知らないということが差別をおこす、とおっしゃっていたことが印象的でした」（生徒の感想より）

取組③ 社会の一員としての自覚を持ち、自己実現を目指す実践

①主権者教育

特別講座「私たちが拓く日本の未来」を開催し、講演や模擬投票を通して有権者として求められる力を身につけさせた。

模擬投票の様子

「投票に行って県政や国政を少しでも良いものにできるように貢献したい。」（生徒の感想より）

②進路学習

• 自己理解レポートの作成・上級学校への校外学習
自分の適性や自分の力を発揮できる場を見つけさせた。

取組④ 地域貢献・交流活動の実施 学校家庭クラブ活動・文化部への依頼活動

• **商店街ファッションショー**：地元商店街に人通りを増やしにぎわいを生み出すため、ファッションショー（３年生が各自でデザインし製作した衣装を披露）を実施し好評を得た。
• **平野幼稚園の園児を招いてのお楽しみ会**：近くにある平野幼稚園の園児を招いて、お楽しみ会を実施した。オリジナルの劇などを披露したり、じゃんけん列車やジェスチャーゲームなどをして園児と楽しみ、有意義な時間を過ごした。
• 地域の集会（ひらのまちづくりフォーラム）に参加し、家庭科学科の３年生が課題研究（保育実習）の取組を発表した。

ファッションショーの様子

園児を招いてのお楽しみ会

取組⑤ 誰もが輝ける場所のある集団づくり

• 学園祭のＣＩＡ（マスゲーム）では、クラス全員で一つの表現を作り上げる喜びを体験できた。

成果と課題

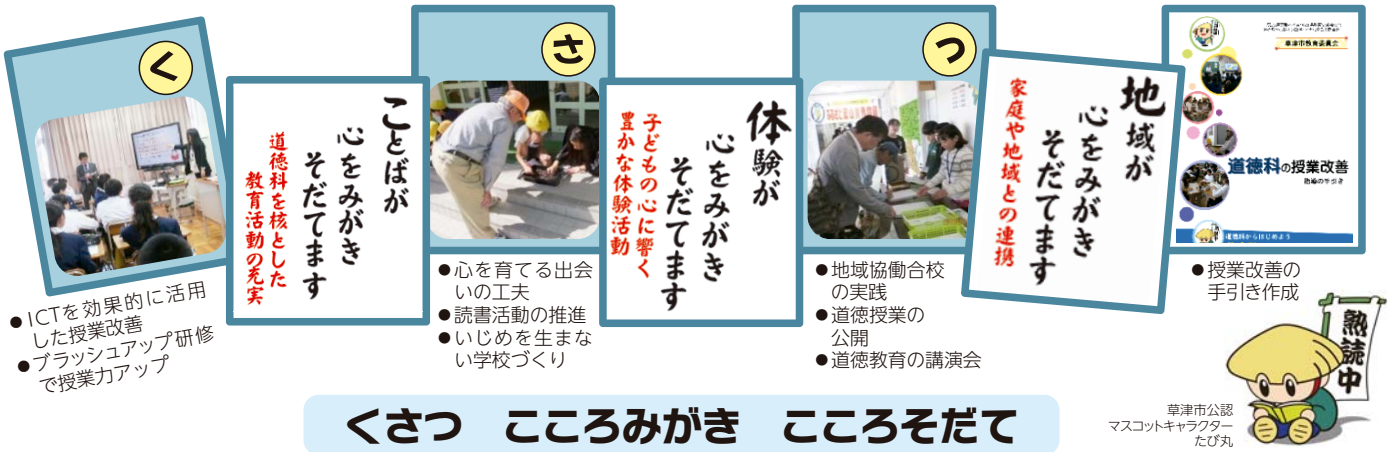
○様々な教育活動を道徳教育の視点で整理し、教育活動全体の中に位置づけ工夫改善することで、道徳教育が着実に定着している。
○学識経験者を招いた「道徳教育教職員研修会」を開催し、課題や今後の方向性の確認ができた。
●研修会での指導助言をもとに、授業研究や教員研修をさらに活発に行い、道徳を意識した、社会に開かれた教育課程を推進する。

ALL草津で取り組む　子どもの心に響く道徳教育

草津市教育委員会〈http://www.city.kusatsu.shiga.jp〉

草津市では、児童生徒の豊かな心の育成を図るため、ALL草津で子どもの心に響く道徳教育に取り組んでいる。

道徳の時間を核とした教育活動の充実に努めるため、推進校２校を中心に実践研究を行い、各学校の児童生徒や地域の実情等に応じて、多様な指導方法の工夫を取り入れた授業研究を推進した。また、小中学校教員を対象に、授業改善のための研修を行ったり、授業改善の手引きを作成したりして、指導力の向上に努めている。地域の特色を生かした取組など道徳教育と関連付けながら、カリキュラムマネジメントを行い、心に響く豊かな体験活動の充実も図っている。さらに、家庭や地域と連携した道徳教育を推進するため、道徳教育への意識を高める活動も啓発している。



くさつ　こころみがき　こころそだて

「楽しくて力のつく湖南市教育」の中核となる「こころの教育を通した、仲間づくり」の推進

湖南市教育委員会〈http://www.city.konan.shiga.jp/〉

湖南市では、「楽しくて力のつく湖南市教育」の実現を目指し、「学力保障」「ふるさと意識」とともに「仲間づくり」を取組の三本柱に据え、自尊感情を高めることを大切にする教育を推進してきた。自尊感情を持って自分を輝かせて生きる子や、人とのつながりを大切にし、周りを輝かせて生きる子の育成のため、3つのプロジェクトの推進に力を注いできた。

【心ひらく（授業づくり）】

- 「授業の湖南市スタイル」で子どもの主体的な学びを重視。
- 市教育委員会が推進校の校内研究会に参加し、指導・助言。

校内研究会でのグループ協議

【心ひろがる（啓発活動）】

- 「湖南市教育だより」で推進校の取組について地域・市内各校園・教員へ発信。
- 湖南市保育士・教職員全員研修会での自己啓発研修の開催。

車いすバスケットボール
北田千尋選手を招いて
「自分を誉めるプロになる」
の講演会

【心ひびきあう（学校・地域連携）】

- 「湖南市こころの教育推進協議会」を開催し、意見交流。
- 地域と連携した道徳的実践の場の保障および自尊感情の育成。

地域の方を巻き込んだ
「あいさつチャレンジ」の取組

豊かな出会いを体験する学習と校種間連携の充実

多賀町教育委員会〈http://www.town.taga.lg.jp/〉

夢をもち、夢を語り合う～夢先生事業～

本町では、町内小学校５年生を対象に、毎年「夢先生事業」を行っている。アスリートを特別講師「夢先生」として招聘し、子どもたちに夢の実現について語ってもらう機会としている。

本年度は10月に、ロンドンオリンピックに出場した水泳選手を講師として迎えた。子どもたちは、実体験に基づいた話を聞き、夢や目標を持つことの大切さや、困難を乗り越え努力することの素晴らしさを実感することができた。

私も、夢に向かってあきらめず努力を続けたい。（子）

私もこの学習で、自分の夢を見つけることができた。（子）

「集団づくり」部会での協議

豊かな人間関係の構築をめざした校種間連携の取組

町内６校園の教職員が３部会に分かれ、連携を図っている。

部会の一つである「集団づくり部会」では、豊かな人間関係の構築をめざし、それぞれの発達段階に応じた取組を進めている。

保育園・幼稚園・こども園……自分の思いを発表する場の設定
小学校……安心して思いが伝えられる学級の雰囲気づくり
中学校……学級での居場所づくりや、認め合いの機会の設定

年４回の部会を通して、思いやりの心やよりよく人と関わる力が、どの校園でも一貫して育まれるよう校種間の密な連携に努めているところである。

子どもも大人もトイレ掃除から学ぶ心磨き

滋賀ダイハツ販売株式会社〈http://www.shiga-daihatsu.co.jp〉

滋賀掃除に学ぶ会の運営

「NPO法人　日本を美しくする会」の滋賀県支部として平成７年、社内に事務局を設立、「滋賀掃除に学ぶ会」を運営しています。この会はトイレ掃除をすることで自分自身の心を磨き、世の中の荒み、心の荒みをなくしていこうという活動です。

トイレ掃除をして得られるとされる「トイレ掃除の五徳」を明確にし、子どもも大人もわかりやすく学べる環境で掃除に学んでいます。トイレ掃除をさせていただく場所は主に公共の施設（学校等）です。発足当初は年２～３回の開催でしたが、平成22年に「学校支援メニュー」に登録させていただいてからは開催回数も大幅に増え、現在では年間約30回の開催、県内およそ80校の小・中・高・特別支援学校様のトイレをお借りして開催することができました。平成30年11月24日には栗東市立葉山中学校様にて第300回目の大会、翌月１日には長浜市立北中学校様で第301回目の大会を迎えることができました。今後もリピートの学校様、新規の学校様問わず私達ができる範囲で支援させていただこうと考えております。

第301回大会長浜市立北中学校（学校自体は10回目）

トイレ掃除の五徳

なぜトイレ掃除か？

一、謙虚な人になれる
どんなに才能があっても、傲慢な人は人を幸せにすることはできない。人間の第一条件は、まず謙虚であること。謙虚になるための確実で一番の近道が、トイレ掃除です。

二、気付く人になれる
世の中で成果をあげる人とそうでない人の差は、無駄があるか、ないか。無駄をなくすためには、気付く人になることが大切。気付く人になることによって、無駄がなくなる。その「気付き」をもっと引き出してくれるのがトイレ掃除です。

三、感動の心を育む
感動こそ人生。できれば人を感動させるような生き方をしたい。そのためには自分自身が感動しやすい人間になることが第一。人が人に感動するのは、その人が手と足と体を使い、さらに身を低くして一所懸命取り組んでいる姿に感動する。特に、人のいやがるトイレ掃除は最良の実践です。

四、感謝の心が芽生える
人は幸せだから感謝するのではない。感謝するから幸せになれる。その点、トイレ掃除をしていると小さなことにも感謝できる感受性豊かな人間になれます。

五、心を磨く
心を取り出して磨くわけにはいかないので、目の前に見えるものを磨く。特に、人がいやがるトイレをきれいにすると、心も美しくなる。人は、いつも見ているものに心も似てきます。

「自分への思いを深める『特別の教科　道徳』の在り方」

～豊かな体験活動を生かして～

滋賀県小・中学校教育研究会道徳部会

今年度より、小学校では『特別の教科　道徳』が始まった。道徳部会では昨年度の話し合いの充実を通して「自分への思いを深める『特別の教科　道徳』の在り方」について探ってきたことの上に立って、豊かな体験活動を生かす取組を模索してきた。以下は、子どもたちの様々な体験活動を道徳的価値に照らし合わせて、道徳の時間にもう一度振り返ることにより、道徳的価値を深め確かなものとすることを大切にしてきた実践事例である。例えば本実践のように、導入での価値に関する共通体験の想起や、価値に関わる児童の実態について教師が的確に捉え意識して授業に臨むことが大切になる。子どもたちが個々にしている豊かな体験活動を道徳的価値で捉え直すことにより、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度が一層育まれていくと考えている。

1　主題名　　だれにでも優しく　　道徳の内容　B　親切、思いやり
2　教材名　　『はしのうえのおおかみ』（出典：1年　生きる力　日本文教出版）
3　ねらい　　弱い立場の人など身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てる。
4　主題設定の理由

⑴　ねらいとする道徳的価値について（価値観）※ねらいとする価値のよさを描く。

本時のねらいとする道徳的価値は「親切、思いやり」「よりよい人間関係を築く上で求められる基本的姿勢として、相手に対する思いやりの心をもち親切にすること。」である。

自分のことばかりを考えたり、自分の思いだけを主張したりしていては望ましい人間関係を構築することはできない。お互いが相手に対して思いやりの心をもって接するようにすることが不可欠である。思いやりとは、相手の立場を考えたり相手の気持ちを想像したりすることを通して励ましや援助をすることである。また、単に手を差し伸べることだけではなく、時には相手のことを親身になって考えようとする態度を育てることが大切である。

⑵　価値に関わる児童の実態について（児童観）

※ねらいというフィルターを通して捉えた児童の姿を描く。

赤字：本学習を「自分のこと」として考えられる時間とするために、関連している体験活動やその時の姿をねらいとする価値に照らし合わせて描く。

子どもたちは集団生活にも慣れ、親切な行動ができるようになってきている。例えば、物が落ちているとすぐ拾って持ち主に渡したり、帰りの用意が早く終わると、まだの友だちに水筒を配ったりする姿が見られる。さらに、通学途中のバスや電車の中で、「おとしよりに席をゆずったよ。」など、親切にできたことをうれしそうに話す姿も見られる。また、4月当初から2年生との交流を頻繁に行う中で、お兄さんお姉さんに学校のことやあさがおの育て方について教えてもらう経験をしている。運動会の練習では、6年生から応援の仕方を教えてもらった経験や、交流種目においても、並ぶ場所に連れて行ってもらったり競技のルールを教えてもらったりした。生活科の学校探検の学習で、学校の先生方に親切に教えてもらう経験など、親切にする経験や親切にされる経験を積んできている子どもたちである。その一方で、自己中心的な言動で友だちに嫌な思いをさせてしまうことも少なくない。

⑶　教材について（教材観）

※青字：大まかなあらすじ

赤字：ねらいに迫るために、教材のどの部分に注目し、どのような手立てで深めていくのかという教師の思いを描く。

資料の中で、おおかみは自分より小さな動物に対して意地悪な態度をとっている。しかし、自分より大きな熊と出会い、親切にされる経験を通して、自分より弱い立場のうさぎたちに親切にするというお話である。おおかみの気持ちの変化に寄り添う活動から、親切について考えていきたい。教室に平均台を用意し、資料の中の一本橋に見立てたい。この橋を用いて役割演技をすることにより、おおかみの思いに深く寄り添わせたいと考える。おおかみとうさぎの立場の強弱をわかりやすくするために、おおかみを教師、うさぎを児童として演じてみる。親切にすることの気持ちよさを感じているおおかみに共感させるだけでなく、親切にされることの嬉しさについても実感させていきたい。

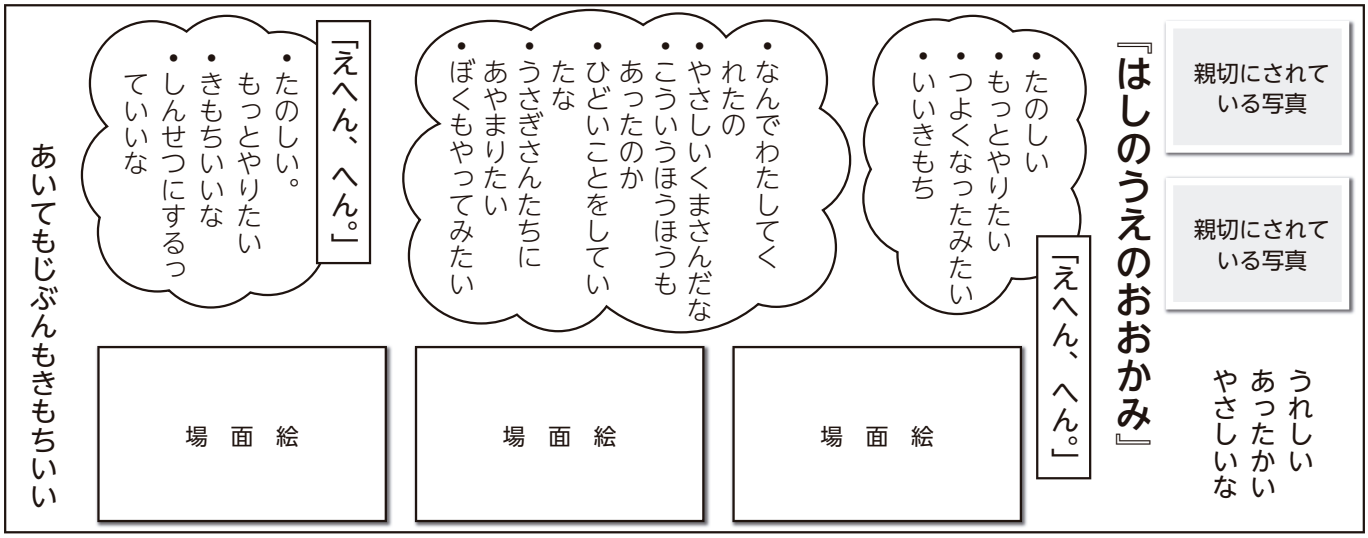
5　本時の展開

	学習活動と主な発問	予想される子どもの思い	教師の支援
導入	1．親切にされた経験を振り返る。 ○そのときどんな気持ちでしたか。	• ありがとうという気持ち。 • やさしくおしえてくれてうれしかった。	• 親切にされた経験を思い出せるように、2年生と交流した写真を見せる。 ※価値に関する共通体験の想起を仕組む。
展開前段	2．教材『はしのうえのおおかみ』を読み話し合う。 ○「もどれ、もどれ」と言ってうさぎたちを追い返しているおおかみはどんな気持ちでいるでしょう。 ◎くまの後ろ姿をいつまでも見ているおおかみはどんなことを考えているでしょう。 ○うさぎたちを抱き上げているおおかみはどんな思いでいるでしょう。	• このはしはだれにもわたさないぞ。 • なんだかたのしいな。 • すごくいい気分だな。 • もっとやりたいな。 • なんでわたしてくれたの。 • やさしいくまさんだな。 • こういうほうほうもあったんだな。 • ひどいことをしていたなあ。 • ぼくもやってみたいな。 • 楽しいな。もっとやりたい。 • なんだか自分も気持ちいいぞ。 • 親切にするっていいな。	• おおかみの気持ちになって資料を聞くことができるように、教師がお面をかぶって紙芝居形式で読み聞かせを行う。 • うさぎたちを追い返すことに楽しみや気持ちよさを感じているおおかみの思いに深く寄り添うために、役割演技を行う。 • くまを見つめながら、これまでの自分の行いを振り返るおおかみについてペアで話し合う。 • くまに対する気持ちと、自分を振り返っていることを分けて板書する。 • 親切な行為をしている時のおおかみの気持ちに深く寄り添うために役割演技を取り入れる。
展開後段	3．自分の生き方を振り返る。 ○おおかみのように相手も自分もよい気持ちになったことを思い出してみましょう。	• 妊婦さんに電車の席をゆずったよ。こけちゃったら大変だと思ったからだよ。	• 行為だけでなく、その時の思いを大切にするために、切り返し発問をする。
終末			• 誰にでも優しく接することのよさを感じられるようにする。

6　本時の評価

親切にすることのよさを感じ、身近な人たちに親切にしていきたいという思いを強くしているか（発言）。

7　板書計画



学校・家庭・地域社会で豊かな心を育む （道徳教育推進協議会）

この協議会に参加して、結果を求めてしまうと道徳ではない、色々な考えを聞いて、子どもたちそれぞれがどう感じるのか、ということが道徳では大事なのだということを感じました。

今年度から新教育要領となり、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿がはっきり示されました。道徳性・規範意識の芽生えについて、小学校・中学校にどう繋げていくかということを考えて取り組んでいます。

どの教科書も、家庭や地域との連携について考えて作成されているので、研修会で教科書を見るなど、PTAの活動も工夫できればいいと思います。

トイレ掃除を通じて、心を磨いています。我々も学ばせていただきたいという趣旨で学校にお願いしています。汚れやすいところをみんなできれいにする。いつもきれいな状態を保つ取組をすることで、心が磨かれる。そこに地域との連携などができれば、充実した取組になるのではないかと感じています。

子どもの権利条約にも定められているように、道徳教育においても、主体は子どもであり、価値観を押し付けるのではなく、子どもが主体的に感じて学ぶのが道徳だと思います。また、子どもが学んできたことを、親も感じ取れたらすばらしいと思います。

道徳教育は、挨拶や言葉遣いなど、人権教育に通じる部分が多いと感じました。靴をそろえるといったことなど、保護者も共に学ぶ場、話し合える場があればいいと思います。

自分ができないこと、やれないことを人に頼む。学校で子ども同士が自然にお互いに助け合うということができたなら、道徳教育はさらに効果を発揮するのではないかと感じているところです。

学校では、道徳の時間だけではなく、体験活動との関連を図るなどしながら重点的な指導が行われています。また、道徳教育の推進には、地域と連携することが、大変重要になってきます。

委員の皆さんからの発言

平成30年度　滋賀県道徳教育推進協議会委員一覧（敬称略）

	氏　　名	所　　属　　等
会　長	押谷　由夫	武庫川女子大学教育研究所教授
副会長	森　　美穂	滋賀県立大津高等学校校長
委　員	根本　直輝	滋賀ダイハツ販売株式会社リクルート室室長
委　員	松原　洋介	社会福祉法人穴太福祉会風の子保育園保育士
委　員	橋　有日子	滋賀県PTA連絡協議会副会長
委　員	吉井　純子	長浜市立びわ認定こども園園長 滋賀県国公立幼稚園・こども園長会副会長
委　員	藤井　純子	多賀町教育委員会事務局学校教育課課長
委　員	野瀬めぐみ	草津市教育委員会事務局学校教育課副参事
委　員	村地　和代	湖南市教育委員会事務局学校教育課指導主事
委　員	今村　増弘	東近江市立愛東南小学校校長 滋賀県小学校教育研究会道徳部会長
委　員	中村　信次	湖南市立日枝中学校校長

資料１

道徳科の評価について

道徳科の評価に関する基本的な考え方

- **授業において児童（生徒）に考えさせることを明確にして**、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める」という目標に掲げる学習活動における児童（生徒）の具体的な取組状況を、一定のまとまりの中で、児童（生徒）が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を適切に設定しつつ、学習活動全体を通して見取ることが求められる。
- 年間や学期といった**一定の時間的なまとまりの中で**、児童（生徒）の**学習状況**や**道徳性に係る成長の様子**を把握する必要がある。

（学習指導要領解説より）

学習状況の把握

授業者が授業で一定の道徳的価値についてどのように考えさせるのか、**明確な指導観をもって**授業を構想することが必要

例

子どもたちが教材の中の登場人物に自我関与することで、友達と互いに高め合うことのよさについて考えさせたい

【評価の視点】
登場人物と自分自身を重ね合わせて、友達同士が高め合うことのよさについて考えていたか

道徳性に係る成長の様子の把握

道徳性の成長ではなく、道徳性を養うために行う学習の様子がどのように成長しているのかについて把握するということ

例

具体的には……

【評価の視点】
- 道徳的価値の理解について
- 自己を見つめることについて
- 物事を（広い視野から）多面的・多角的に考えることについて
- 自己（人間として）の生き方についての考えを深めることについて

どのような成長が見られたのか

道徳科の授業における PDCAサイクルの充実

ねらいに向けた授業構想

子どもたちに「本時に考えさせたいこと」を確実に考えさせ、深めるための手立てを考える

授業実践

切り返し発問、意図的指名を行ったり、話合いのグルーピングや板書を工夫したりして、本時のねらいにせまる

児童生徒の評価

発言・記述だけではなく、表情・うなずき・傾聴等に注目したり、質問したりするなど個々の児童生徒へ配慮する

授業の評価

（例）子どもの発言を傾聴して受け止めるとともに、発言の背景を推察したり、学級全体に波及させたりしていたか

道徳科においても、学習評価の妥当性、信頼性等を担保することが重要です。そのためには、評価は個々の教師が個人として行うのではなく、学校として組織的・計画的に行われることが重要となります。

資料２

道徳科学習指導案の様式（参考例）

第〇学年　道徳科学習指導案

日　時：　年　月　日〇校時
学　級：　〇年〇組教室〇名
授業者：　職・氏名

1　主題名「〇〇〇〇」〈内容項目〉

※道徳科の年間指導計画における主題名を記載する。道徳科の主題は、指導を行うに当たって、何をねらいとし、どのように教材を活用するかを構想する指導のまとまりを示すものであり、「ねらい」とそれを達成するために活用する「教材」によって構成される。

2　教材名「〇〇〇〇」（出典：　　）

3　主題設定の理由

(1)　ねらいとする価値について（価値観）
　　ねらいや指導内容についての教師の捉え方
(2)　価値に関わる児童・生徒の実態について（児童・生徒観）
　　(1)に関連する児童生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い
(3)　教材について（教材観）
　　使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

※記述に当たっては、児童生徒の肯定的な面やそれをさらに伸ばしていこうとする観点からの積極的な捉えを心掛けるようにする。また、抽象的な捉え方をするのではなく、児童生徒の学習場面を予想したり、発達の段階や指導の流れを踏まえたりしながら、より具体的で積極的な教材の生かし方を記述するようにする。

4　本時のねらい

※本時で特にどのような道徳性（心情・判断力・実践意欲・態度）を育てたいのかを記述する。

5　本時の学習指導過程

※一般的には、導入、展開、終末の各段階に区分し、児童生徒の学習活動、主な発問と予想される児童生徒の発言、教師の支援・留意点、指導の方法、評価などを指導の流れに即して記述することが多い。

学習活動・主な発問	予想される児童生徒の思い	教師の支援・留意点（評価・方法）
※学習指導過程は、 1　（導入） 2　（展開前段） 3　（展開後段） 4　（終末）の４つ となる場合が多い。	※予想される発言を分類して書く。 ※記述された発言から本時のねらいが達成されるか検討する。	※「～としたい」という願いだけでなく、具体的な手立てを明記する。 ※評価する場面と評価方法を書く。 （例：ワークシートへの記述）

6　事前・事後の指導の工夫（他教科等との関連）

7　評価

※展開の中に項目を設定して記載することもできる。

8　板書計画

※板書の機能を生かすために重要なことは、思考の流れや順序を示すような順接的な板書だけでなく、教師が明確な意図をもって対比的、構造的に示したり、中心部分を浮き立たせたりするなどの工夫をすることである。

9　その他

※座席表、教材分析、補助資料などを必要に応じて付記する。

ねらいに即して問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れるなど、多様な方法を取り入れ、指導を工夫することが大切です。また、学びを深める手立てとして、切り返し発問や意図的指名などを取り入れることも重要です。

学習指導要領による　道徳教育

― 推進体制チェックポイント18 ―

あなたの学校の推進体制は整っていますか
18項目で点検して、実践につなげていきましょう

総合到達度　／18

1　道徳教育推進教師を中心とした協力体制

到達度　／6

道徳教育推進教師は、校長の方針のもと、全体計画や年間指導計画の立案、校内研修の実施、教材の充実・活用、家庭や地域との連携など、全校体制で取り組む道徳教育をコーディネートします。

◆学校（校長）の道徳教育の方針が明確に打ち出されている……Yes・No
◆道徳教育推進教師が担当する役割が明確になっている……Yes・No
◆道徳教育に協力して取り組む校内体制がうまく機能している……Yes・No
◆道徳科の授業づくりについて気軽に相談できる人がいる……Yes・No
◆道徳科の授業研修会を計画している……Yes・No
◆道徳科の全校的な学習参観や道徳教育の情報発信に取り組んでいる……Yes・No

2　活用しやすい全体計画と年間指導計画

到達度　／6

全体計画には、道徳の内容項目に関連する各教科等の指導の内容及び時期や、家庭や地域社会との連携等も示します。また、内容項目の新設や変更に応じた年間指導計画が必要です。

★全体計画に各教科等における道徳教育の「内容及び時期」を示している……Yes・No
★全体計画に家庭や地域社会との連携の方法を示している……Yes・No
★全体計画を見ると学校や学年で重点化を図る指導内容がわかる……Yes・No
★年間指導計画に各学年の全指導内容を重点化して位置付けている……Yes・No
★年間指導計画を見ると道徳科の発問がわかる……Yes・No
★情報モラルに関する指導が年間指導計画に位置付いている……Yes・No

3　道徳科を充実させる環境づくり

到達度　／6

道徳科の指導の配慮事項として、①道徳教育推進教師を中心とした指導体制、②道徳科の特性を生かした計画的・発展的な指導、③児童生徒が主体的に道徳性を養うための指導、④多様な考え方を生かすための言語活動、⑤問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導、⑥情報モラルと現代的な課題に関する指導、⑦家庭や地域社会との連携による指導　が挙げられています。

●時数確保のために道徳科を月曜日以外に位置付けている……Yes・No
●授業研修によって道徳科の授業力アップを図っている……Yes・No
●ティーム・ティーチングなどの協力的な指導体制ができている……Yes・No
●道徳ノートや道徳ファイルを授業で活用している……Yes・No
●学校や学級で道徳コーナーを設けている……Yes・No
●道徳の教材や資料の整備・充実を計画的に行っている……Yes・No

表紙について

題名　「ヒマワリさいたよ」
（第65回滋賀県教育美術展　特選）

空までとどく、げんきいっぱいのひまわりをかきました。町の人や虫たちは、このひまわりが大すきです。いつもたくさんの人や虫たちがあつまってあそんでいます。ひまわりは、いつも町中をみまもっています。

長浜市立長浜小学校　１年　山本　浩毅さん

編　集　後　記

今年度も引き続き、各推進校では、道徳科の目標「自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習」を実現するために、指導観を明確にした授業構想を重視した研究を進めていただきました。切り返し発問や意図的指名、板書の工夫等、子どもたちが道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深める手立てを工夫した結果、子どもたちが「考え・議論する」道徳科の授業が各校で展開されました。また、校長のリーダーシップのもと、道徳教育推進教師を中心とした組織的な取組の充実にも努めていただきました。本冊子には、それらの実践を掲載しています。

最後に、編集に御協力いただきました皆様方に、心よりお礼申しあげます。

幼小中教育課　指導主事　箕浦　健司

• 本冊子は県教育委員会、県総合教育センターのHPで閲覧することができます。

平成30年度道徳教育振興だより
滋賀の子どもたちにこころの元気を
道徳科を要とした道徳教育の充実
平成31年3月発行

発行：滋賀県教育委員会
〒520-8577
大津市京町四丁目1－1